

2022年度 全学学生委員会 学生部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う評価	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる。
<p>【目標】 合理的配慮が必要な学生への支援体制を整備し、運用を行っている。 【具体的な方法】 「文京学院大学障がい学生支援に関するガイドライン」および規定の運用を開始する。 障がい学生支援体制を稼働し、合理的配慮が必要な学生(LGBTを含む)が該当部署を利用し、満足のいく学修ができるようにする。 【KPI】 合理的配慮申請数</p>	<p>障がいを持つ学生が安心して学ぶため「文京学院大学障がい学生支援に関するガイドライン」および「障がい学生支援に関する委員会規程」を整備した。</p>	80% 合理的配慮申請数=0	<p>障がい学生支援に関する委員会規程が年度末であったため、実際にこの規程の運用は出来なかった。</p>	<p>文京学院大学障がい学生支援に関するガイドライン 障がい学生支援に関する委員会規程 学生支援事務局業務実態</p>	<p>障がい学生支援に関する委員会規程の運用を開始し、規程の有用性を検証する。</p>
<p>【目標】 学生同士、学生と教職員との交流を促進し、心身共に安心して学生生活を送るための支援体制の拡充とその周知を図る。 【具体的な方法】 進級に伴いキャンパスが変わった学生へのアンケート結果をもとに施策検討と実施 学生の居場所・交流づくりを検討 ガイダンスの充実、配付資料を活用した学生への情報提供、新入生特別研修による交流促進 教職員向けメンタルサポートハンドブックの学生支援への活用実績を調査し、その結果より、支援が必要な学生を把握して支援する仕組み作りをさらに進める。 不安や悩みの相談先(誰に相談していいかわからない、相談できる人がいない)の明確化 【KPI】 *学生生活に関する意識調査</p>	<p>進級に伴いキャンパスが変わった学生へのアンケートは未実施。学生相談室カウンセラーとメンタルサポート担当教員やクラスアドバイザー等教員との連携が必要な事例については学生に連携の許可を得た上で情報を共有して対応した。新入生特別研修を対面*で全学で実施した。学生たちの心のケアに関する取り組みとして、メンタルヘルスハンドブックを電子ブックとしてSharePointにて公開した。 健康診断期間にメンタルヘルス調査を行いニーズ高い集団を把握するとともに、これらの学生に対し、必修授業で学生相談室の利用の仕方を説明した。</p>	80% 学生の意識調査では、「誰に相談していいかわからない」5、3%、「相談できる人がいない」3、2%	<p>新入生特別研修の対面化が実現したが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残り、合宿や課外活動については活動は感染症対策を行い、省力化での実施となった。今年度後期にはほぼ対面での活動に制限がなくなり、徐々に活動復活の兆しが見えているといえる。計画していたことは概ね実施できたと考えられる。以前より、気楽に相談する学生が増えた印象があるが、未だ相談先に不安がある学生がいることが明確になった。</p>	<p>保健管理委員会資料 学生生活に関する意識調査 メンタルヘルスハンドブック(電子ブック版)</p>	<p>相談数が増え、それに伴って困難例も増えたため、相談員数が不足気味であり、これらに対応するとともに、相談先としてのさらなる周知を各キャンパス学生委員会で検討する。新型コロナウイルス感染症の影響下において活動制限があったため、多くの学生が友人・先輩・後輩、さらには教職員との関係性に距離ができていることが懸念される。今後、学生にとって居心地の良い大学環境を整えるため、キャンパス内、キャンパス周辺での居場所づくり、課外活動の活性化が課題となる。</p>
<p>【目標】 社会状況の変化に応じながら、学生の生活に必要な経済的支援を実施する。 【具体的な方法】 奨学金情報の収集、整理、発信を行う 【KPI】 経済的困難による除籍数(率)の減少</p>	<p>ホームページの奨学金情報を整理し、いつでも必要な手続きや募集中の奨学金情報を入手できるようにした。今年度の一覧表も更新し提示した。また、学生に対して、都度B'sLINKによる配信や、学生に馴染みのあるSNSを活用して情報提供を行った。</p>	100% 除籍数全体は2022年度49件(2021年度78件) 経済的困難による除籍数は2022年度1件(2021年度3件)	<p>除籍数全体は前年度よりも減少した。そのうちの経済的困難による除籍者は数値としては少なくなっているが、全体に対する比率が少ないため、単純に支援の成果であると考えられることは困難である。</p>	<p>HP奨学金ページ</p>	<p>作成したHP等へのアクセス数や見やすさを検証する。奨学金情報をさらに整理し、必要な奨学金制度や対応方法を継続的に検討していく。教員に対しては、各種奨学金について、学生との面談等のスケジュール・締切を一覧表で時系列に提示できるように検討する。</p>
<p>【目標】 寮生に必要な支援を検討し、実施する。 【具体的な方法】 コロナ感染者発生時の対応マニュアルの整備 寮心得の理解促進(案内、説明) 【KPI】 途中退寮数の減少</p>	<p>コロナに罹患した学生への対応について検討し、他の学生の安全を守るため自宅療養とすることとした。実際にルールを運用したが、自宅に高齢者がいるなどの理由で、寮での静養を希望する学生が複数存在した。</p>	60% 年度途中での退寮数は2022年度本郷1、ふじみ野4(2021年度は本郷0、ふじみ野1)	<p>途中退寮数は2021年度よりも増え、ルールを運用しても、寮で静養する学生がいることから、さらなる対応について検討が必要であった。</p>		<p>コロナ感染症は収束に向かっているが、今後も新たな感染症が発生する可能性があるため、寮生が何らかの感染した場合の対応について引き続き検討する</p>
<p>【目標】 社会貢献・地域連携を通じて地球市民としてのアイデンティティを確立する。 【具体的な方法】 SDGsやSRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)に関わる学内での活動を支援する方法を模索する。 留学生・ウクライナ避難者に必要な支援を検討し、実施する。 国際交流委員会との連携を推進する。 【KPI】 支援数</p>	<p>学内で実施されている、SDGsやSRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)に関わる活動について、情報を収集したに留まった。ウクライナ避難者の受け入れは実施される予定である。</p>	支援数=1	<p>コロナ禍でもあり、通常の支援の他の新たな支援は実施出来なかった</p>		<p>コロナ感染症による制限が緩和され、留学生およびウクライナからの避難者が入学するため、国際交流委員会との連携を強化する。</p>

2023年度 全学学生委員会 学生部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
<p>【目標】 メンタルサポート体制の強化 【具体的な方法】 学生相談室、メンタルサポートハンドブックの教職員・学生周知の強化、外部相談員の利用 【KPI】 保健管理委員会での相談室報告内容</p>
<p>【目標】 学生生活に関して、学生がさまざまな被害に遭わないための対策を強化 【具体的な方法】 さまざまなハラスメントに関する啓発活動の実施 マルチ商法やSNS利用の注意点を喚起する ジェンダーに関して加害・被害者となる学生を出さない。 【KPI】 相談数の減少</p>
<p>【目標】 障がい学生支援に関する連絡委員会の運用開始 【具体的な方法】 障害学生支援体制の構築として、「合理的配慮」の内容を継続的に検討していく。教員に対しては、各種奨学金について、学生との面談等のスケジュール・締切を一覧表で時系列に提示できるように検討する。</p>
<p>【目標】 学生が安心して安全な学生生活を送るための支援体制の拡充とその周知を図る。 【具体的な方法】 課外活動の加入促進と、学生の居場所・交流づくり 新入生特別研修による交流促進。コロナ禍で培った動画研修などは鋭意活かす。 【KPI】 不安や悩みの相談先(誰に相談していいかわからない、相談できる人がいない)の減少 *学生生活に関する意識調査</p>
<p>【目標】 学生の生活に必要な経済的支援を行うとともに、学生の経済的観念を醸成する。 【具体的な方法】 奨学金情報の収集、整理、発信 文化教養講座でのFP講座 【KPI】 除籍数(率)の減少</p>

2022年度 全学学生委員会 学生部(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う評価	評価の理由/課題/根拠データ等	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる。
【目標】 ストレス耐性をもった学生の育成とそれを補完するための永久サポート大学としての基盤形成。 【具体的な方法】 アサーショントレーニング、30km ウォーキング、五街道ウォーク、清流木曾川中津川リレーマラソン等について、コロナ禍でも有用な計画を策定し、実施する。 外部者の入構が制限されている中、卒業生とのコミュニケーション方法について検討する。 【KPI】 前年度参加数より10%増加	ストレス耐性をもった学生の育成のため、アサーショントレーニング、30kmウォーキング、五街道ウォーク、清流木曾川中津川リレーマラソン等オンラインを含めすべてを実施または参加した。外部者の入構が制限されているため、卒業生とのコミュニケーション方法については進展しなかった。		30km ウォーキングについては、経路に危険箇所があるため、距離を短縮して行ったが、荒天のため計画変更に対する十分な検証が出来なかった。		30km ウォーキングについては、引き続き実施方法を検討する必要がある。
【目標】 学生会(部・同好会)等課外活動の活性化 【具体的な方法】 学生会を支援し、新入生歓迎会等による部・同好会への入部促進 各団体でのノウハウの継承 コロナウイルスの感染状況に応じてそのときどきの最善の活動方法を準備する。 【KPI】 部・同好会参加者数の維持増加	可能な範囲で対面での新入生歓迎会の入部促進の実施や課外活動実施を行った。本郷キャンパスでは新規団体も設立した。対面以外ではキャンパス内での掲示、およびオンラインによる新入生への勧誘活動を実施した。また、オンラインでの実施などのノウハウも継承した。	80% 部・同好会参加延べ人数(2021年度比):本郷キャンパス1.2倍、ふじみ野キャンパス1.8倍	新型コロナウイルスの状況も落ち着いてきたため、新入生歓迎会等の入部促進は対面やオンラインも併用して行うことができ、前年度より活動が活性化したと評価する。	部員数一覧	来年度は感染対策を考えつつ、対面での新入生歓迎会の入部促進実施や課外活動実施を計画していく。また、各団体・委員からの案内など、オンラインを活用する利点などは活かしていけるよう今後も実施の検討をしていく。また、課外活動の加入率増加について検討する。
【目標】 学園祭の参加者数の増加 【具体的な方法】 出展促進、参加促進のための支援のため、早期より参加の意味について啓発する。 コロナ禍で注意すべき点や社会状況に鑑みた認識を実行委員との教職員間で共有し、参加者増加を模索する。 【KPI】 出展による参加者数コロナ前の半数まで回復(対面実施を行った場合)	コロナ対策を実施しながら、3年ぶりに対面で学園祭を実施した。文京祭ではAnimeJapanプロジェクトの映画配給のサポートを行うなど、関係各所と連携をとり、参加団体や来場者数が増えるような工夫を行った。	80% 来場者数は本郷キャンパスはコロナ前と比較し8割、ふじみ野キャンパスは2割参加団体は本郷7割増、ふじみ野はコロナ前の6割	コロナ禍、実行委員が中心となり、3年ぶりの対面実施ができた。久しぶりの対面開催もあり、様々な問題や困難な部分がありつつも、多くの工夫を行い無事に終了することができた。ただ、一般来場者の動員不足に課題が残った。	学生委員会あやめ祭報告資料 文京祭報告資料	来年度も基本的な感染対策を講じて対面開催で計画する。実行委員の人数が減少していることから、大学からのサポートも検討する。また、参加団体・来場者を増加させるため、広報活動等の体制も整える。
【目標】 学生生活アンケートを継続して実施し、学生からの多くの情報を入手して学生支援に活かす。 【具体的な方法】 調査結果の新たな活用(KPI、二次使用、FD等) 【KPI】 活用数の増加	アンケートの回収率は43%であり、昨年度と同様であった。学生に対する依頼文に「二次利用することがあります」という一文を加えたことで、二次分析に利用できるようになった。学生生活意識調査アンケートをファイル共有して、アンケート項目の継続的検討を図るとともに学生生活に関する多様な情報を得るための方策を検討した。	80% 活用数は変化なし	二次分析に利用できるようになったが、それを活用することは推進できなかった。また、他の調査と重複し、アンケートに回答する時間が授業などに支障を来すといった問題点が見られた。	学生生活アンケート結果、学生への依頼文	二次分析できるよう、データ提供体制や情報提供について検討していく。質問項目を変更せずに実施することで、経年変化を分析できるようにする。重複するアンケートが複数あることから、調査時期や実施方法について改善策を探る。
【目標】 規程の整備も含め、効率よい委員会活動の実施に向けた検討を行う。 【具体的な方法】 Formsによる意見収集 【KPI】 会議時間	事前に会議資料(PDF)の閲覧を促し、審議事項および報告事項について、当日の審議時間を確保した。また各委員の役割を明確にし、円滑に活動した。	50% 概ね会議時間は短縮の傾向にあったが、具体的な時間は未計測	会議時間が短縮されたことより、委員会としての実質的な活動時間を確保できた。	学生委員会議事録	両キャンパスで作業の流れを共通化し、より効率よく委員会活動を展開するための方策を考える。

2023年度 全学学生委員会 学生部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
【目標】 学生会(部・同好会)等課外活動の活性化 【具体的な方法】 学生会を支援し、新入生歓迎会等による部・同好会の入部促進 ノウハウの継承 【KPI】 部・同好会入会数の増加
【目標】 学園祭を活性化し、学生の活動を地域社会に示す。 【具体的な方法】 出展促進、参加促進のための支援 地域に根ざした活動の強化 実行委員会の主体性の重視、学生の満足度向上 【KPI】 来場者数、出展による参加者数の増加
【目標】 危機管理マニュアル(学生編)の制定 【具体的な方法】 学生部と危機管理委員会との連携 【KPI】 規程の完成
【目標】 学内での不法行為、危険行為を未然に防止する。 【具体的な方法】 禁煙に関する啓発活動の実施 違反者に対する個別指導の実施 喫煙所の利用に関するマナー利用方法の改善をづづけてゆく キャンパスは全面禁煙について検討を続ける 近隣への迷惑行為を防止するだけでなく、文京学院生としてのマナーを示すことで本学のイメージアップをはかる 【KPI】 禁煙指導の多角化(健康面、経済面、学習面) クレーム数の減少
【目標】 学生生活アンケートを継続して実施し、学生からの多くの情報を入手して学生支援に活かす。 【具体的な方法】 調査結果の新たな活用(KPI、二次使用、FD等)。アンケート項目の継続的検討を図り、学生生活に関する多様な情報を入手できるように努力する。 【KPI】 活用数の増加